

羽田空港貨物地区ナイトステイエプロン

羽田空港の貨物地区で、航空機が駐機する北側ナイトステイエプロンの供用が本格的に始まった。既設のコンクリート板を撤去し、路床の安定処理や路盤工事を行った上で、コンクリート舗装を施工した。工事はNIPPOが担当。工事区画は供用中のエプロンに隣接し、徹底した安全管理が求められる中、高性能の舗装機械をフル稼働させるとともに情報化施工を駆使。3・5万立方メートルのコンクリート舗装を厳格な品質管理の下で効率良く仕上げ、予定通り3月初旬の供用開始にこぎ着けた。

施工NIPPO

を考慮した最適な工事計画を立案した。

コンクリート舗装の作業には、型枠レールの上を走行する従来のセット

コンクリート舗装に3.5万³m³打設

工事は「東京国際空港貨物地区北側ナイトステイエプロン舗装等工事」として国土交通省関東地方整備局が発注した。航空機に近い制限区域内での工事のため、NIPPO

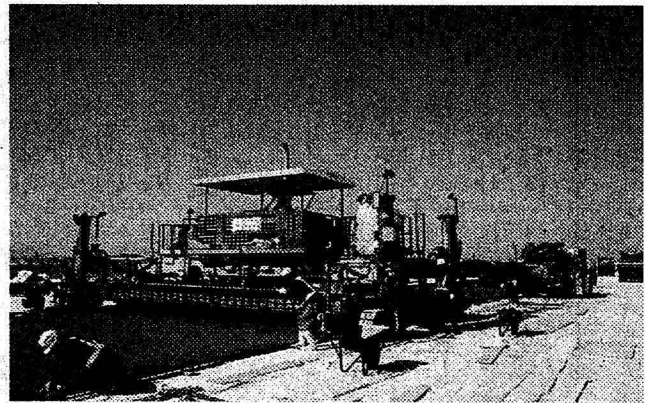
稼働することもある搬送機は、既設コンクリート板の撤去作業ではミスト

稼働することもある搬送機は、既設コンクリート板の撤去作業ではミスト

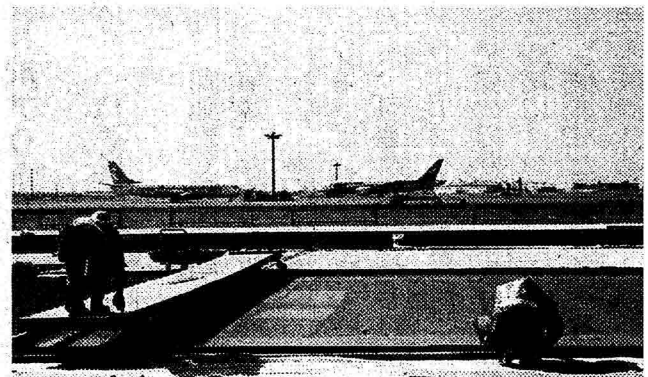
稼働することもある搬送機は、既設コンクリート板の撤去作業ではミスト

現場探訪

フォーム方式の機械と、型枠レールが不要で、コンクリートの敷きならし型舗装工事への適用が増えつつある。NIPPOは締め固め・平たん仕上げを1台で行えるクローラ式の「スリップフォームペーパー」という二つのため、セットフォームも併用し、2種類の機械を同時に稼働させて1日約730立方メートルの打設を行った。航空機の荷重を支えるコンクリートの伸び縮みに



スリップフォームペーパーで生産性と品質を確保



端部は手作業で入念に仕上げた

検査項目増やし品質管理徹底

全を期した。既存エプロンに近接する部分は夜間に施工。作業が行える時間が短いため、準備が必要なスリップフォームは使わず、一般的な打設機器によって人力で作業を進めた。「人も機械も健康でない」と、打設効率が落ちてしまつ」と石川政利所長。小さな事故も起こさないよう工事関係者全員の体調管理と機械の保守管理を徹底。空港のルールを順守しながら施工機械をフル稼働させた。搬送車両はNIPPOが積極的に手配。周辺の生コンプラントから安定した材料供給が行える体制を維持した。路盤の一部には、アスファルトを用いている。施工には、衛星利用測位システム(GPS)とゾーンレーザ技術を組み合わせて、機械を自動制御しながら設計データ通り